高崎市教育委員会臨時会会議録

開 会 年 月 日

令和2年4月23日(木) 午後4時

閉 会 年 月 日

令和2年4月23日(木) 午後4時54分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務
代 理 者 竹 内 一 普

委 員 清 水 久 美

委 員 塚 田 展 子

委 員 重 田 誠

事 務 局 (説明員)

教育部長 小 見 幸 雄

学校教育担当部長 佐 藤 明 彦

教育総務課長 植 原 政 美

社会教育課長 土 谷 真由美

文化財保護課長 角 田 眞 也

中央公民館長 藍 美 香

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 大 澤 克 教

学校教育課長 橋 爪 幸 雄

健康教育課長 山 崎 幹 夫

教育センター所長 永 井 智 幸

高崎経済大学附属高等学校事務長 神 宮 義 子

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

4月23日	会議に附した事件
承認第5号	臨時代理の承認について（高崎市立小学校、中学校及び特別支援学校管理運営規則の一部を改正する規則）

高崎市教育委員会臨時会会議録

教育長（飯野眞幸）

皆様、急な招集でしたが、ご協力ありがとうございます。これより、高崎市教育委員会臨時会を開会いたします。

議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定といたしまして、会期は、本日1日といたします。

日程第2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、竹内教育長職務代理者と重田委員を指名させていただきます。よろしくお願ひいたします。

教育長（飯野眞幸）

それでは、本日の議事に入ります。

承認第5号「臨時代理の承認について（高崎市立小学校、中学校及び特別支援学校管理運営規則の一部を改正する規則）」を議題といたします。

提案理由の説明をお願いします。

（橋爪 学校教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。本案は原案のとおり決することで、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議なしと認め、承認第5号は原案のとおり決しました。

以上で、予定していた議事の審査は終了いたしました。学校における新型コロナウイルス感染拡大防止のための今後の対応について、意見交換をさせていただきたいと思ひます。

ご存知のように、先程知事が会見を開きまして、県立学校の授業再開を5月末まで延期するという発表がありました。その中で、市町村も足並みを揃えてもらえると有難いというニュアンスがひしひしと伝わってまいりました。決定権限は市町村にあるわけですが、決定するにあたって、委員の皆様のご意見等を伺い、意見交換をさせていただきたいと思ひます。

最初に、医学的な見地が大きく左右されると思ひますので、恐縮ですが重田委員からお考え等があればお願ひしたいと思ひます。

委員（重田誠）

お渡しした資料から説明させていただきますが、1枚目が全国的な統計ですが、線が累積の患者数、棒グラフが1日の患者数です。これを見ると、累積の患者数はどんどん増えており、日ごとの患者数は頭打ちになってきたように見えますと思いますが、実際には日本のPCR検査数は非常に少ないので、水面下で起きていることは非常に分かりにくいです。また、感染経路不明者が増えてきていて、市中に非常に蔓延している状態だということが分かります。

2番目ですが、子どものコロナウイルス感染率が少ないとされています。3枚目に4月20日時点の中国と日本の感染者数のデータの比較がありますが、10歳未満が中国で0.9パーセント、日本で1.53パーセント、10代は中国で1.2パーセント、日本は2.37パーセントと全体的に数は少ないですが、小児の数が増えてきています。

3番目ですが、「ネイチャー・メディシン」という雑誌で、感染した人たちのグループで二次感染が起こるか調べたデータがありまして、それを見ると症状が全く出ない、これは前から言われていましたが、症状が発生する2、3日前から移る、しかも移る直前が非常に感染力は高いということがわかりました。潜在的な感染者が増えてきて、かつ症状が全くない人たちが増えてくると、いくら学校で発熱者や咳をしている人を分けても罹ってしまう可能性があるのです、これが非常に問題です。

続きまして4番目ですが、これが日本の現状です。日本は感染者が1万人を超えてしまいましたが、そこの下に書いてあるのが、今日現在の世界の感染者数、死亡者数、死亡率です。これを見ると、アメリカは感染者数84万人、死亡者数4万6千人、死亡率5.5パーセント、イタリアは感染者数18万人、死亡者数2万5千人、死亡率13.3パーセントということで、日本は現状では死亡率2.5パーセントで結構頑張っています。しかし、すでに東京もそうですが、群馬県のほとんどの病床はパンク状態で、各都道府県でこれ以上感染が増加すると、あっという間にパンクしてしまいます。日本は非常に頑張っていますが、これで医療崩壊してしまうと、すぐにイタリアと同じ状況になってしまう可能性があるのです、ここはなんとしても止めなければいけないというのは、今の医療従事者としての思いです。学校再開に関しては難しい問題がいくつもあるので、行政側が止めたいという理由は、このような変遷があるということを知っていたらと思います。

教育長（飯野真幸）

丁寧な資料を作ってください、ありがとうございました。

富山の小学校の事例が盛んに報道されていますが、学校が再開している時に発生したのではないかとということで、何故再開したのかという非難の声、教育委員会に寄せられているという記事がありました。大きな判断をするときに、そのような部分も考えていかなければいけません。

ただ今、医学的な見地についてお話いただきましたが、再開を延期したときに、児童生徒の学習の遅れや心の持ち方とか、そういった問題も併せて考えなければいけないと思います。そういう部分のフォローも今後どのようにしていくか、やはり一体で考えていく必要があるのかと思います。塚田委員の方から、今後の休校期間中にこう手を打つことが必要だと思われる事があれば、ご紹介いただけますでしょうか。

委員（塚田展子）

子どもが家に居るという事で、子ども自身もそうですが、保護者の方が一番焦りを感じていると思います。大人の私たちでも新型コロナウイルス感染症拡大の問題に局面して、どうしようかと感じているわけですから、当然、親の苦悩は子どもに伝わります。生活基盤も随分崩れて行くと思いますので、そういう面では親の生活の中に子どもが居るわけなので、当然子どもは影響を受けるだろうと思います。したがって、子どもというのはあまり親に心配をかけないようにしようと思ひ、表に出さないかもしれませんが、そっと見守るような形を取っていくことが必要なので、学校が相談を受けた時には、保護者の方の相談も受けられるといいと思います。

また、不登校に陥っている子どもは比較的この時期安定します。子ども自身も安定しますし親も安定します。けれども、しっかりと勉強してリズムよくやれていた子が、途端に今出来ていないという情報が入ってきています。そうすると、親がそれに心配し、反応してしまう事がありますが、子どもに対して緩やかに受け止めをしてあげてほしいと思います。親が外に出ていて、子どもたちが家に残っている状況の中で、兄弟同士のトラブルや問題が生じていて、親もそれに気付かず、子ども本人がSOSの電話をしてくる場合がありますので、いろいろな所に目配りをつけていただいた方が良いのかなと思います。

教育長職務代理者（竹内一普）

ありがとうございます。教育長が途中退席されましたので、私が進行を代行させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

ただ今、塚田委員から現状について説明いただきましたが、ご意見はございますでしょうか。

（「特になし」との声あり。）

教育長職務代理者（竹内一普）

皆様それぞれの立場からお話をいただきたいと思います。保護者の立場から、清水委員いかがでしょうか。

委員（清水久美）

私の下の子ども2人は大学生と高校生の男の子で、あまり手は掛からない状態ですが、子ども全員が小学生だったら、かなりのストレスを受けるのではないかと感じています。私の子どもは、ほとんど姿を見ないで部屋に籠っている状態ですが、あまり干渉し出すときりが無いなと思ひ、先ほど塚田委員がおっしゃったように、存在しているだけで感謝しようと思ひ、基本的に見ないようにしています。

他の保護者の方から伺う話では、特にサラリーマンの家庭ですと、日中、旦那さんが居なかった生活ががらりと変わって、食事の作る回数が増えるなど、母親の負担がかなり増えている事を聞いています。それに加えて子どもの事も気になるので、両親のどちらかと言うと、母親の方のストレスがかなり溜まっていると思います。

また、私の友人で、教員の方の話ですと、学校に登校して来る子どもの中で、特に小学校1年生がとても心配だとおっしゃっています。学校によって色々な取り決めですとか、子どもへの対応は違うと思いますが、登校して来る子どもに対して、市で何か取り決めがあるのか伺いたいと思います。

教育長職務代理人（竹内一普）

では、学校教育課長お願いいたします。

学校教育課長（橋爪幸雄）

学童クラブとの関連で、各学校に学校開放をお願いしています。特に学童クラブの中には低学年の子どもたちが沢山おりますので、学校開放の現状を見ましても、やはり低学年の1、2、3年生が多いと思います。学校と学童クラブとの連携も非常に良く出来ていますので、そこでの言葉掛けですとか対応は、非常に丁寧だとは思いますが、対応によつての温度差はあるかもしれませんが、至って良好な関係で進んでいるので、安心していただければと思います。

教育長職務代理人（竹内一普）

保護者の皆さんは、子どもの学習の遅れとか生活のリズムとか、色々な不安があると思いますが、市のホームページでは動画配信も始まったと聞いております。

この辺りは教育センター所長、いかがでしょうか。

教育センター所長（永井智幸）

3月に算数、数学、ストックしてありましたプリント教材から始めて、読書の勧めという事で、先生方から聞いたお勧めの本をアップしました。その後、それぞれの教科書について、最新の情報が得られるようなリンクを張り、4月になって動画配信という事で、現在3本の動画があがっております。県の方は15本あがっているそうです。今後、教育センターでは3本追加する予定です。県ほど数はないですが、今後も計画的に進められればと考えております。

また、学校でもユーチューブの動画が作成できるような案内もさせていただきまして、先生方の負担もあり、出来る学校と出来ない学校がございますので、サポートしながら進めて行きたいと考えております。

教育長職務代理人（竹内一普）

ありがとうございます。動画作成が出来る学校と出来ない学校はいずれ調整していただけたと思いますが、動画を見ることが出来ない家庭の問題が大きいと思います。その辺りの周知の仕方や環境整備につきましては課題があると思いますが、県と市との整合性でのご意見や課題などはございますか。

教育センター所長（永井智幸）

今のところそのような情報は入ってきておりませんが、現在、県が配信しているのは、3月の補充を中心に行っています。市につきましては、4月からの授業を始めましたので、その辺のすみ分けをさせていただきました。どちらも、市教育センターのページから入れるような工夫をしています。また、学校教育課の方で行っているプリント学習についても、入れるように全て1本化させていただきました。

教育長職務代理人（竹内一普）

保護者の方全体に、この情報が行き渡る工夫をしていただいていると思いますが、その辺りをしっかり確認して、周知をしていただきたいと思います。関連して、他にご意見等ございますか。

委員（塚田展子）

学校の開放については分かりました。放課後児童クラブなどに使用しないという事ですが、基本的には家の中に居るとい事が今回のお休みする理由だと思うのですが、保護者の方から聞いた話ですと、自宅近くの公園ですとか家の前で行動したりすると、近所から声がうるさいから止めさせてほしい等の厳しい意見があったようです。その後、家の中に居てくださいというメールが一斉に行ったらしいですが、その辺りはどのようなになっているのでしょうか。

学校教育課長（橋爪幸雄）

学校教育課の方にも施設利用の件で、外部の保護者の方からのメールや電話が来ているのは確かでございます。先程、塚田委員がおっしゃったように、基本的には自粛傾向ですが、市の施設についてもホームページ上で使用できる施設と出来ない施設を公開しています。その中で、健康面等の問題もありますので、自粛ですが安全を考えてお使いくださいと電話等で回答させていただいております。駄目ですと強くは言えませんが、場合によっては張り紙がされていて、場所が限定されてしまいますが、自粛を前提に保護者の判断にお任せすると、丁寧に回答させていただいております。

委員（塚田展子）

大人の寛容性の無さというか、遊び回っているわけではなくて、家の前で縄跳びをするのも許されないという声があります。子どもに閉じ籠っていてというのは無理で、もちろん遠く動き回るのは良くないですが、家の目の前で縄跳びをするくらい、目を閉じてほしいと思いますが、そうした側面もあるようです。

委員（重田誠）

先程の話と絡むのですが、子どもの貧困とか家庭の問題や食事が取れないとか、そうした子どもたちは大丈夫でしょうか。もう一点は、教育センターなどで教材を配信していますが、教育委員会はこのような活動をしているという事を、ホームページ等で公開しているのでしょうか。また、子どもたちは今の状態を、なぜこのようになっているか意外と分からないようです。子どもだから知らなくていいのではなくて、少なくとも高学年の子どもたちに対しては今の状況を、教育者として教えた方が良いのではないかと思います。今後、世界が少し変わる可能性があるのも、そのような時に何もしないのではなくて、現状と子どもたちなりにやっていく事を、教える事も考えていった方が良いのではないかと思います。ホームページ等で教育委員会の立場を親に伝える、もう一つは子どもたちにも伝えることは勉強になると思いますが、その辺りはいかがでしょうか。

学校教育課長（橋爪幸雄）

貧困等の相談は、今のところ当課には来ていませんが、家庭学習をどのようにしていくのかという相談は、かなり多くのご意見が来ております。心配なご家庭には、スクールソーシャルワーカーが積極的に関わっていますので、そこから情報を共有して進めて行きたいと考えております。

委員（重田誠）

他の部署とも連携して、把握していただけると有難いと思います。

教育長職務代理者（竹内一普）

私も同じ質問をしようと思っていたのですが、県知事から学校再開延期の指針が出たという事で、今の状況からすると、ほとんどの保護者は賛成だと思います。しかし、再開してほしいと言う意見もあります。重田委員がおっしゃったように、担当課が違うという事が問題かと思いますが、児童相談所や児童養護施設と連携している部分と、我々が情報として知ってはいけないのかどうか、ここをうまく連携していけると良いのではないかと思います。児童相談所や児童養護施設に入れる子どもは比較的安全な気がしますが、そこに入れないうるぎりの子がいて、その保護者が学校を再開してほしいのではないかと思います。

学校を再開してほしい理由として、保護者の仕事や業務時間の問題、また子どもの食事の問題が大きいような気がします。特に昼食に関わる事、2番目は勉強や運動が停滞して遅れを取り戻せない環境にあること、自分の家、自分の力ではどうにも出来ない問題を抱えている。全体的には、子どもの生活のリズムが乱れるという事。保護者が変則的な環境なので、もともと取り戻せないのですよね。だからこそ、その部署と学校教育課が連携して情報共有していく必要があるのかなと思っています。この辺をこれからどのように動くか、この場では答えが出せないかも知れないので、我々の立場から相談を受ける課に教育長を通じて相談して行き、解決策を導こうと思います。

2番目のご質問について、お願いいたします。

学校教育課長（橋爪幸雄）

ホームページ上の学校教育課の中から、学校教育や教育センターのページに移ります。大々的なお知らせは、学校を通しての通知でやっていただいています。周知の仕方は、今後研究していかなければいけないと思います。

教育長職務代理者（竹内一普）

子どもが保護者と一緒に、そこへクリックしていくルートがまだ周知出来ていないのですよね。

委員（重田誠）

ホームページで教育委員会のメッセージを常に出していくと良いのではないかと思います。今、子どもたちは教育センターのページで動画等を見ているので、そこにメッセージを入れても良いのではないかなと思います。子どもは説明すれば良くわかるので、なぜ今このような事をしなくてはいけないのか教えてあげるのは大事ですし、社会はどうなっているのか等、メッセージとして教えていくのも必要ではないかと思います。

教育長職務代理人（竹内一普）

ありがとうございます。私の方から、2点質問があるのですが、食生活に関して、特に給食の問題ですが、現状はどのようになっていますでしょうか。

健康教育課長（山崎幹夫）

主に、業者への対応という事でお話をさせていただきます。本市では、3月と4月、給食を休止している状況ですが、特に3月は発表が非常に急だったので、学校にすでに納入した食材と発注してしまってキャンセルが出来ないもの、また、塩や砂糖、バターなどの賞味期限が持たない食材は、3月、4月分を全て市が買い取りをさせていただくと回答しております。業者は収入のほとんどを給食に頼っているという状況もございますので、各々に説明をして対応しております。業者の方は、転売できるものはして、対応を工夫されている状況です。

教育長職務代理人（竹内一普）

ありがとうございました。福岡市では、ドライブスルー給食という事で、食材販売をする給食センターが出てきているようです。そのような事例も業者と食材の活用という点では有効かと思えます。子どもたちの食生活の乱れや、昼食が用意できない親の解消として、例えば、ドライブスルー給食配食など、有効性があれば検討の必要性も感じます。子どもが学校へ給食を取りに行く事自体が危険だと思う親もいますし、運動不足解消に良いという親もいると思えます。その辺のガイドラインが出来れば、そんな話もなくもないかな、というご意見をいただいております。

そしてもう一つですが、子ども用のマスクについて、既に市から10枚ずつ配布されて大変有難いと思っています。しかし、低学年サイズがなかなか難しい。説明書を読みましたが、ゴムを調整して使ってくださいという事でしたが、これも出来る家庭と出来ない家庭があると思えます。やったからいいのではなくて、その現場で何が起きているのかという事も想像して、あるいは意見を聞きながら修正していく役目がこの場なのかと思います。他にご意見はいかがでしょうか。

委員（清水久美）

お願いという形になってしまいますが、先ほど重田委員がおっしゃっていたように、子ども自身が、なぜ外出を自粛しなければいけないのか、なぜ学校が長く休校しているのかを、把握出来ている子と出来ていない子がいると思えます。特に出来ていない子には、分かりやすく担任の先生から感染を広げてはいけないし、自分の大切な人を守る意味もあって外出を自粛している事などを、しっかり教えてほしいと思えます。理解できていない親も居るかもしれないので、子ども自身がしっかり学校で教えてもらい、逆に子どもから親に教えるような形も良いのではないかと思います。

また、今、医療従事者に感謝をしようという動きがありますが、その方々だけではなく、リモートワークが出来なくて働かなくてはならない色々な職種の方々にも、子どもたちがしっかり感謝できるように教えていただきたいと思えます。コロナによるいじめが起きているという事も聞きますので、子どもたちがしっかりと理解できるように、学校で教えていただき、休校期間を過ごしてもらいたいと思えます。

教育長職務代理人（竹内一普）

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

委員（重田誠）

政府の専門者会議で、ウォーキングや運動は良いとされていましたが、それに対しても気を付けましょうという事が出てきています。学校の中での感染症対策として、きちんとやっているという事をどこかに入れておいた方が良いのではないかと思います。学校に行って、子どもたちが沢山集まってしまう密になるのは困るので、学校での安全対策をしっかりと考えていただいた方が良いと思います。学校を開放し、対策はこうしていますというのがないと、なぜ休校なのに学校へ行っているのかと言う人もいるので、ある程度運用を確保することと、安全対策をどのようにマッチングさせるのか、納得するような形でしておいた方が良いのではないかと思います。

教育長職務代理人（竹内一普）

ありがとうございます。教育長が戻られましたので、進行を代わらせていただきたいと思います。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。皆さんのご意見をいただいたようですが、新型コロナウイルス関係は他にご意見よろしいでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

その他に事務局から何かありますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

委員さんから他の件で何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ないようですので、以上をもちまして、高崎市教育委員会臨時会を閉会いたします。大変ご苦勞様でした。